

平成29年度第1回倉敷市スポーツ推進審議会 議事録

日時 平成29年6月1日(木) 10時55分～12時30分
会場 倉敷市庁舎3階 議会第2会議室
出席者 審議会委員：松井会長・向井副会長・小野委員・延原委員・松原委員・
宮川委員・守屋委員・安田委員・矢田貝委員
事務局：原田局長・三宅部長・三宅次長・北島課長・山本課長主幹・
爲房主任・吉原主事・竹並主事
教育委員会：荻野主任
傍聴者 0名

1 開会

事務局から新委員2名を紹介。委員、事務局ともに自己紹介を行った。

2 報告事項

報告第1号 倉敷市スポーツ振興基本計画の到達目標について
事務局から基本計画の到達目標について資料を基に説明。

3 議事

議案第1号 倉敷市スポーツ振興基本計画(平成28年度事業)の評価に
ついて

【事務局説明要旨】

資料3ページに33事業を挙げているが、平成28年度からスポーツ振興基本計画の後期の5年間が始まるということで、御報告の中で説明した、【目標1 成人の週1回以上のスポーツ実施率】、【目標2 国民体育大会における倉敷市関係選手団人数】を達成するために、この33の事業をそれぞれの主担当部署が中心となって平成28年度は取り組みを行った。資料2にまとめてあるが、それぞれの主担当部署が自己評価をしている。審議会では33事業すべてを評価していただくのが難しいということで、平成28年度につ

いてはこの中の【No. 25】総合型地域スポーツクラブの充実, 【No. 31】倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」の充実の2事業に絞って作業部会である計画部会で議論させていただき, 行動に移した。4ページ, 5ページには審議会に際して事前に皆様に2事業について評価していただいた点数とコメントと併せて, 平成29年度に取り組もうとしていることを掲載している。

【出席者意見（抜粋）】

松井会長：「Kurashiki Sports Navi」について, 受託先の松原委員に御出席いただいている。自己評価を見るとアクセス数もどんどん増加しているが, 今後これを更に活用するという方向で, 一気に拡充できるようなものではないが, 今後の方針についてどのようにお考えなのか。

松原委員：情報サイトなので, 情報の鮮度が一番大切。旬の話題や獲得したい情報がこのサイトを通じて知ることができる, あるいはスポーツ関係の申込等もサイトを使ってできる, また, 行政への申請とか受付の窓口にもなるようなものを, このサイトを通じて行えば閲覧数も高まってくる。現在は情報の発信だけで, このサイトを通じて得られるものはあまりない。スポーツをする人たちがこのサイトを通じて申し込みができたり, たとえばスポーツ振興基金の申請ができたりとか, あるいは指導者を検索することができたりとか, そういった双方向のやりとりができるようなサイトになればアクセスも増えてくるのではないかと思う。今はパッケージ型のサイトなので, できることにも限界がある。その中でもできることをしている状況ではあるが, 今後どんどん発展させていくということになれば予算もいるしパワーもいると思う。

松井会長：松原委員が言われたようにキャッチボールができていない。キャッチボールができると, そこを一本化にする必要はないがそこから申

申し込みができるよ、あるいは奨励賞といったところの申請もできるよというような、それに関連してこういうこともやってみようということでアクセスも増えるしサイト自体が価値のあるものになると思う。市民サービスをするのはいいことだが、それに着目してキャッチボールができるようなことは興味があるようなことではないか。事務局としてはどのように考えているのかいつも体育章・奨励賞は選考の漏れが生じてきている。そういうこともクリアできるのかなと思ったりもする。

事務局（北島）：サイト運営については限られた予算・パッケージの中でスポーツ振興事業団様に頑張ってアクセス数等を増やしてもらっている。また、鮮度が大変大切だということで、関係団体にも働きかけをしていただき、頑張っていたいただいているところだが、確かに一歩現状を抜け出して、よりサイトを利用していただくためには、松原委員の言われたとおり、申込であるとか、キャッチボールができたりするといったことが、一段上のサイトになるのだろうと感じている。そういった申し込みがサイトからできるのかは勉強させていただきたい。今のサイトから違うサイトに替えないとそういったことができないかもしれないし、そうするとスポーツ情報サイトを移し替えるということになるため、今後研究をさせていただきたいと思う。

松井会長：いずれにしても基本計画というのは単年度で見直しを図って次年度にさらにステップアップするもの。限られた予算・パッケージの中でやっているものだが、一度検討していただくよう、宜しくお願いします。

本日、スポーツ推進委員協議会会長の向井委員に出席をいただいているが、総合型地域スポーツクラブとスポーツ推進委員は地域に根差した活動ということで、目的は一つだと思う。本市にはクラブが3つあるが、その中でスポーツ推進委員はクラブの立ち上げに関

わっているのか。

向井副会長：関わっていない。目的として同じことはしている。ただ、総合型地域クラブの場合は自分が行きたいという人を集めている。我々の場合はとりあえず全部の人を寄せてきている。来る人の思いが違う。自分が行こうと思って来ているのだから、すごく盛り上がる。こちらはまだそれだけの意識が無い人を引っ張ってきてやっている。

松井会長：総合型地域スポーツクラブのスタートは国、文科省。目指すところは同じでお互いに地域における地域の活性化、スポーツで住民の活性化ということを狙いにしている。例えば倉敷市総合型地域スポーツクラブ連絡会を立ち上げたのであれば、地区内・エリア内にスポーツ推進委員もおられるので、目指すところを共有して活性化できればますます良いのではないかと思う。

向井副会長：予算規模が違う。総合型は参加する人からお金を集めてしている。こちらは与える方ばかり。

松井会長：国が東京オリンピックを目前に、競技スポーツと生涯スポーツを一緒にしてスポーツ庁を作った。競技スポーツも生涯スポーツもすべてスポーツということで、自分たちが心身ともに健康になろうというのがスポーツ少年団の理念でもあり、あるいは競技を通じてトップを目指そうとする競技団体、あるいはニュースポーツ・生涯スポーツの振興というのも全部目的は一緒なので、そこでスポーツを通じての一つの大きな理念を持っているのが、今スポーツ庁ではないかと思うのだが、そういった組織の方が活動していくのが参加者にとって一番メリットがあるのではないかと思う。我々もスポーツ推進基本計画を検証していくうえで、今は「する」「みる」「支える」の3本柱なのだが、倉敷市のスポーツはどこを向いていくのかなと

いうことを、しっかり認識していったうえで、スポーツの振興を司っていければよいと思う。

私は日本体育協会の理事をさせていただいているのだが、日本体育協会も6月の評議委員会あたりで、日本体育協会そのものの名称が変わっていくと思う。それに従って日本スポーツ協会となったり、体育の日がスポーツの日になったり、スポーツと体育のさびわけをしっかりとしながら、スポーツなるものをしっかりとしていこうと。しかしながら従来から日本が取り組んでいる学校体育、いわゆる教育の一環であるが、それも大変良いものであり、例えば礼儀やマナーをしっかりと植えつけ、青少年の人格形成に役立っている。良いものは継承しながら、次のステップに発展していこうと考えておられる。倉敷市もそれに同調しながらここを目指していくんだよという指針が必要ではないかと思う。その点、延原委員は、例えば自己紹介の際に言われた岡山市から見た倉敷市ということで、何か意見があれば。

延原委員：実は私は20数年岡山県体育協会の岡山県スポーツ少年団に関わっている。もともと県の教育庁における保健体育課の中に県の体育協会があった時に、私も保健体育課に在籍して今の体育協会の仕事をしてきた。スポーツ少年団の仕事をしてもう四半世紀になるが、今も常任委員、専門委員、スポーツ少年団の交換交流大会の運営委員長であるとかいろいろな立場があり、それと高校の校長として岡山県高体連の副会長の立場として仕事をしている。申し上げておきたいのが、今働き方改革として特に中学校の部活動がやり玉に挙げられている。OECDの調査で、小中学校の教員の勤務時間が長いとの意見があり、明らかに部活動が変わるはず。文部科学省も法で設定し、外部から入っても試合の引率が出来るという制度を作った。まだ運用はしていない状況だが、これから日本のスポーツ、特に小中高あたりのジュニアのスポーツは変わるはず。そういうものを見通

したことは考えておかなければならないと思う。私は剣道が専門だが、操山高校出身で、当時剣道の先生がいなかった。私は道場育ちで、いわゆる社会体育育ち。社会体育と部活動がうまく融合する日本独特のシステムを作るべきだと30年来思っている。そういったことへの対応を考えていただきたい。特に中学校の部活。

それと、倉敷市はスポーツ少年団への加入が非常に少ない自治体だが、小学生たちはスポーツクラブをたくさんしている。おそらく子ども会とか児童館といった組織で、児童館というのは倉敷独特のもので、そういったところでたくさんやっている。そういう、少年スポーツをコントロールすることができるのか。児童館とか子ども会のスポーツが計画の中にでてこないのか、ほったらかしなのか。教育委員会とか児童福祉の関係でしているから、スポーツ活動をしているにも関わらず、スポーツの理念とか、公平性が行き届いていない気が直感です。大人のスポーツはたくさん出てくるが、ジュニアのスポーツの部分が見えてこない。日常的なスポーツ活動が大事であり、そういった部分が見えてこない。

議案第2号 倉敷市スポーツ振興基本計画（平成29年度事業）の取り組みについて

【事務局説明要旨】

1. 会議について、6ページに記載のあるとおり平成29年度の会議スケジュールを予定している。実質的な作業部会である計画推進部会で、今回の会議でいただいた意見等を、現場レベルで検討していきたい。

2. アンケートについても、昨年と同様に実施する。設問の設定等については、計画推進部会で議論のうえ、決定する。

3. 事業の進行管理について、平成28年度では議案第1号で報告した【No. 25 総合型地域スポーツクラブの充実】、【No. 31 倉敷市スポーツ情報サイ「Kurashiki Sports Navi」の充実】の2事業の他に、【No. 5 健康スポーツ教室の開催】、【No. 33 地域スポーツ活動支援センターの設置・充実】の2つの事業についても重点的

に取り組んでいきたいとしていたが、平成28年度では十分に議論できなかつたため、今年度、計画推進部会で議論していき、方向性や議論の内容を第2回の審議会で報告したいと思っている。

【出席者意見（抜粋）】

小野委員：少し外れているかもしれないが、組織がとても複雑でさっぱりわからない。「する・みる・支える」の3本柱は簡潔でわかりやすいが、スポーツ分野にそこまで関わっていない立場の者からすれば、もう少し簡単な組織であれば、会議の場でもわかりやすい。それは難しいことだと思うが。

松井会長：既存の団体がそれぞれ活動しているため難しいと思うが、国もあらゆる団体をまとめていこうとしているため、倉敷市も将来的にはスポーツは何のためにするのかという理念を共有し、その中に大きな柱があり、その下に「する・みる・支える」がある方が、市民の理解度も増すであろうし、我々もシンプルに考えることができる。

事務局（北島）：大変難しい質問だが、行政としては国がスポーツ庁を作ったように、組織ができるだけまとまった方が当然スポーツの振興がしやすいといったことはありますけど、今の段階ではスポーツ振興課・教育委員会・健康づくり・障がい福祉といったあらゆるところをすべてスポーツでまとめるといったことは難しいので、今まで以上に連携を深めていくことしかできないのかなと思う。スポーツ関係団体等の皆様についても、今ある団体を全て統合するというのは現実的には難しいかなと思うので、連携を密にしていくことしか今の段階では申し上げにくい。

松井会長：そうは言っても、具体的なことではなく、大まかな方向性を出してくれた方が倉敷市のあらゆる団体・組織がスムーズに展開して

いくのかなと思う。これも研究していただきたい。延原委員が言われるように、これからはジュニア・キッズの運動遊びも必要だと思われる。スポーツ，体を動かすことは権利としてうたわれているので，倉敷市民の体を動かすことの必要性，大切さを訴えられるようなものを決めていただければありがたい。

延原委員：倉敷市の市の体育協会の下はどのような組織になっているのか。

岡山市の場合，旧岡山市の名残から小学校区すべてに体育協会があり，小学校単位がすべて町内会。体育協会と町内会の範囲が一致していて，そこですべての物事が進んでいっていて，わかりやすくなっている。玉島のあたりではそういったことが見えてこないが，どうなっているのか。

事務局（爲房）：倉敷市は地区体協といったものはない。確かに子どものスポーツ振興をするうえで，岡山市のシステムは魅力的だと感じる。過去を振り返ると，倉敷市は子ども会・児童館という存在が大きいのかなと思う。プラスして公民館の存在も大きく，行政の組織改革に伴い，良いところもあるのだが，マイナス面も少し働いていると感じている。岡山市を含めた近隣の市町村の良いところを参考にしながら，子どものスポーツといった意見をいただいたので，そういった視点からも環境整備をしていければ良いなと感じている。

延原委員：岡山市ではスポーツ推進委員，かつての体育指導員が学区に必ずいた。その人たちが学区のスポーツの振興を担っている。倉敷市の場合，独特なもので児童館は大きいのだと思う。推進委員がどのような単位で選ばれているのかまだわかっていないが，何がなんだかわからないというのが，正直な意見。

松井会長：まだこれが最終章ではないので、いかにしてスポーツの認識を広めていこうかと言っている会議なので、倉敷市にはしっかり研究していただいて、他の市町村を参考に、それを反映できるかできないかをこの審議会で協議すれば良い。前向きに考えていってほしい。

宮川委員：大きい話で少しわかりにくい面もあるが、現実問題として1～33の事業の内、来年度はNo. 5, No. 33について行われるということで、今までであったように複雑ではあるが各団体が連携していかなければならないということで、できることからという観点からすれば、No. 5の健康スポーツ教室の開催ということで、川崎医療福祉大学・高梁川流域の大学が関わっている。スポーツ教室を開催するのは、御自身が健康になるためプラス、地域に入って指導する人材を育成していくという目的もあり、育成された人材がどこに行けばいいのかということを考えていると思うので、そのあたりの情報を、例えば総合型・スポーツ推進委員の方に情報を渡すといった、具体的な筋道をたてる方策も必要なのではないかと思う。それをKurashiki Sport Naviといった情報サイトで共有していくといった、できることからしていくといったことも大事だと思う。

松井会長：ここの地区は指導者を持っていないが、推進委員がいるなら派遣しよう総合型があるなら派遣しようといった網掛けをしっかりとしていけば形になる。そういったことを事務局は考えているのか。それがないと絵に描いた餅になる。そうすることによって各団体の連携が深まる。

事務局（北島）：そこを目指して頑張りたい。

4 その他 倉敷市のスポーツに関する取り組みについて

平成28年度の報告と平成29年度の予定を事務局から報告。

守屋委員：6月17日にスポーツ振興事業団主催で、真備総合体育館でラジオ体操の講習会が開催される。私も早速申し込みをした。一般の方がスポーツをするとすると、ウォーキングやラジオ体操といった、普段着でもできるようなスポーツになり、そういったものが浸透するというのが倉敷全市民の方がスポーツをしていることになるのでは。ラジオ体操を夏休みだけ小学生がするのではなく、日頃から子どもから大人まで取り組むということが広がれば、市民に浸透していると言える。

また、先程延原委員から倉敷市のスポーツ組織の話があったが、旧真備町の時代には、体育協会一本でスポーツ少年団も社会人チームも、学校関係以外はすべて体育協会が管理してわかりやすかった。倉敷市になると、それまで真備町で独占していた野球場も倉敷市全体が使用できるということで、地元のスポーツ少年団等がかえって使用できなくなっている。児島の方が真備まで来てくださるのはとてもありがたいのだが、地元が優先できて、取り合いにならないような仕組みができれば。

延原委員：岡山県民としてずっと気になっているが、今年のインターハイでは施設があるから水球ができたが、他の競技は施設がなく、全国大会を開催できない。インターハイも全中も今はブロック開催なので約10年に一度は必ず回ってくる。今年のインターハイは岡山県が9競技したが、他の県が4～5競技持っている。10年後には必ずインターハイが岡山で開催され、4～5競技であれば、岡山市の体育館と陸上競技場、笠岡市・総社市の体育館になる。倉敷市では施設が無いからやるものがない。倉敷市はインターハイや全中をずっとやらないということで本当に良いのか。お金がかからないのは良いが、倉敷市にとってそれは本当に良いことなのか。去年は津山市での開催がゼロだった。津山市は市民からそういう声すらでない市になってしまったのか。国体で仕事をしていたが、スポーツ振興を考

えていく中で、市としてはお金はかからない方が良いが、実は何もやらないほど寂しいことはない。少し迷惑をかけるくらいの方が良いのではないかと思う。岡山市がマラソンをすると学区ではボランティアで協力しようと、すごく機運が高まっている。倉敷市が行っているトライアスロン大会もそうではないか。全国大会が開催できる施設を考えられるべきではないか。色々な大会が、施設が無く笠岡で開催されている。岡山県にはスポーツマスターズ・ねんりんピック・スポーツレクレーション祭が必ず近いうちに回ってくる。今のうちに新倉敷駅の北側に施設を作っておくべき。山陽本線が通っており交通の便も素晴らしい。福田公園は足が無く、中・高校生がかわいそう。

松井会長：スポーツで市を活性化しようとするならば、将来を見通した施策も必要だと思う。

7 閉会

閉会あいさつ 倉敷市スポーツ推進審議会 副会長 向井 彰